

健康まえばし21（第3次計画）
令和6年度の実績・
今年度の関連事業の取組方針について

資料の見方

健康寿命の延伸

分野

- 1. ★健康寿命の延伸 日常生活に制限のない期間の平均 【参考】まえばし健康年齢
 - 2. ★75歳未満の健康寿命の延伸 減少
 - 3. まえばし健康年齢の増加
- 【参考】保険者とともに健康経営に取り組む企業数(まえばしウェルネス企業登録数)

番号	策定時	現状値	策定時と比較	目標
1	平均寿命 健康寿命 男性 81.10 男性 79.41 女性 84.10 女性 82.41	—	—	平均寿命の増加を上回る健康寿命の増加
2	62	62	↑	策定時の数値と現状値を比較し 改善↑ 悪化↓ 変化なし=

※1 現状値は、策定時以降新たなデータが公表されていない場合「—」と記載。

資料の見方

健康寿命の延伸 関連事業

事業名【担当課】	事業内容	令和6年度実績	今年度の取組方針
事業名と担当課 まなびのひろば 企業【健康増進課】 一般介護予防教室 【長寿包括ケア課】	事業内容 積極的な従業員健康づくりに取り組む企業 登録企業 65歳以上の対象は、運動・栄養・口腔・認知症予防等を学び、介護予防のための生活習慣の獲得を目指す。	令和6年度の事業実績 開催回数：5回 延べ参加者数：263名	今年度の取組方針 保険者とともに登録企業数増加を目指す。健康づくりに関心のある企業、健康代 年1回、介護予防教室を開催。昨年度と同様に実施する。

※2 関連事業は、特に関連が深い分野に記載した

※3 追加された事業は赤字で示しています

健康寿命の延伸

1. ★健康寿命の延伸 日常生活に制限のない期間の平均 【参考】まえばし健康年齢

番号	策定時	現状値	策定時と比較	目標
1	平均寿命 男性:81.19 女性:86.97	平均寿命 男性:81.15 女性:87.1	↓ ↑	平均寿命の増加を上回る健康寿命の増加
	健康寿命 男性:73.41 女性:75.8	健康寿命 男性:73.37 女性:75.54	↓ ↓	
	【参考】 男性:80.13 女性:84.68	【参考】 男性:80.09 女性:84.08	↓ ↓	

健康寿命の延伸

- 2. ★75歳未満のがんの年齢調整死亡率の減少
 - 3. まえばし健康づくり協力店の登録数の増加
- 【参考】保険者とともに健康経営に取り組む企業数(まえばしウェルネス企業登録数)

番号	策定時	現状値	策定時と比較	目標
2	62.5	58.71	↑	減少傾向
3	164	187	↑	増加
参考	347	363	↑	400

健康寿命の延伸 関連事業

事業名【担当課】	事業内容	令和6年度実績	今年度の取組方針
まえばしウエルネス 企業登録制度 【健康増進課】	積極的に従業員や家族の健康づくりに取り組む企業を登録。登録企業のさらなる健康増進を支援する。	363企業	保険者とともに登録企業数増加を目指す。また健康づくりに関する情報提供や健康教室、健康相談等を実施し、働く世代の健康づくりを推進する。
一般介護予防教室 【長寿包括ケア課】	65歳以上を対象に、運動・栄養・口腔・認知症予防等を学び、介護予防のための生活習慣の獲得を目指す。	開催回数：5コース 延べ参加者数：263名	年5コース、シニア元気アップ教室を開催。昨年度と同様に実施する。
通所型サービスC 【長寿包括ケア課】	事業対象者・要支援者を対象に、短期間（3か月間週1回）で集中的に介護予防に取り組めるよう支援する。	回数：全48回 延べ参加者数：196名	前橋市柔道整復師会へ委託。関節痛の緩和や日常生活動作の改善を目指し、一人ひとりに合わせた運動療法について指導や自宅で実践できる運動の方法のアドバイスを行う。

健康寿命の延伸 関連事業

事業名【担当課】	事業内容	令和6年度実績	今年度の取組方針
訪問型サービスC 【長寿包括ケア課】	事業対象者・要支援者を対象に、短期間（3か月間）で集中的に介護予防に取り組めるよう訪問指導を行う。	実人数：4名 延べ人数：34名	心身の状況により訪問支援が必要な対象者に対して、対象者のリスクにあわせて専門職がご自宅へ訪問し、生活の状況を確認しながら相談や指導を実施する。昨年度と同様に実施。
歩行測定会 【長寿包括ケア課】	歩行姿勢測定やフレイルチェック等から高齢者個人の健康状態を確認し介護予防や健康増進に役立ててもらうとともに、データを収集し分析することで属性毎の傾向や事業の効果について評価を行う。	実施会場：12会場 実参加人数：613人	各実施会場を13会場に増やし開催。状態の変化を確認するため昨年度参加者に対して参加勧奨を実施。

(1) 栄養・食生活

- 4. 朝食欠食者の減少(20歳以上、男女別)
- 5. ★主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の者の割合の増加(20歳以上)
- 6. 児童・生徒(全小学生の男女別20%以上軽度肥満者)における肥満児傾向児の割合

番号	策定時	現状値	策定時と比較	目標
4	男性:11.5% 女性:7.6%	男性:12.3% 女性:8.8%	↓ ↓	男性:10% 女性:7%
5	51.5%	—	—	60%以上
6	12%	11.4%	↑	減少傾向

(1) 栄養・食生活

- 【参考】 小学5年生の中等度・高度肥満傾向児の割合
7. ★適正体重を維持している者の増加
(肥満[BMI25以上]、若年女性のやせ[BMI18.5未満]、低栄養傾向[BMI20以下]の高齢者の減少)
8. ★共食している者の割合の増加
(週5日以上家族や友人と楽しく食卓を囲む市民の割合[20歳以上])

番号	策定時	現状値	策定時と比較	目標
参考	男子:8.9% 女子:5.6%	男子:7.9% 女子:5.6%	↑ =	—
7	20～60代の男性肥満:36.2% 40～60代の女性肥満:22.8% 20歳代女性の痩せ:23.7% 低栄養高齢者(65歳以上):18.7% 〔 65歳から74歳:17.3% 75歳以上:19.9% 〕	20～60代の男性肥満:36.5% 40～60代の女性肥満:22.7% 20歳代女性の痩せ:21.3% 低栄養高齢者(65歳以上):19.3% 〔 65歳から74歳:18.2% 75歳以上:20.1% 〕	↓ ↑ ↑ ↓	20～60代の男性肥満:30%未満 40～60代の女性肥満:15%未満 20歳代女性の痩せ:15%未満 低栄養高齢者(65歳以上):減少傾向
8	60.9%	—	—	R9:80%

(1) 栄養・食生活 関連事業

事業名【担当課】	事業内容	令和6年度実績	今年度の取組方針
朝食摂取に関する事業（食生活改善推進員） 【健康増進課】	生活習慣病予防、適正体重の維持を目的に、食生活改善推進員が朝食の大切さ、朝食を整える方法を啓発する。	11回、1537人	取り組みを促すことを目的に、使用媒体の見直しを行う。
健康大学 （食生活改善推進員養成講座） 【健康増進課】	食生活改善推進員になるための養成講座として実施。自身の生活習慣の見直しから、地区活動へとつなげる。	11回、86人 （講座のほかWeb視聴による講義実施分を含む）	すべて対面講座に戻し、講師や受講生間のコミュニケーションを促すことにより受講生の質の向上を図る。
若い世代の食育 【健康増進課】	市内高校・大学等を対象に、朝食摂取に関する情報提供を行い、望ましい食生活の実践や自己管理能力の育成を図る。	啓発 3回、474人 講座 5回、552人	取り組み拡大のため啓発先の新規開拓として市内高等学校に周知を行う。
健康ダイエットサポート 【健康増進課】	働き世代を対象に食生活を中心とした個別サポートを行い減量を目指す。	3回、28人（保護者） この他参加者の子36人 R5年度実施者 7人、7回介入	働き世代の肥満対策として、小学生の父を対象に減量を目的とした教室を実施する。

(1) 栄養・食生活 関連事業

事業名【担当課】	事業内容	令和6年度実績	今年度の取組方針
おやこの食育教室 【健康増進課】	親子で食に関心を持ち、良い食習慣を身につけるために、食に関する話と調理実習を食生活改善推進員が行う。	22回、339人	実施内容等検討しつつ継続実施。
肥満傾向児童に対する健康教室 【総務課(教)】	専門職による運動・食事・生活リズム・歯と口等について指導を行う。	【夏】8回、15人 【冬】1回、12人	生活習慣の改善を目的として、引き続き運動指導を行い、医師および栄養士による保護者への指導も継続して行う。
食に関する指導 【総務課(教)】	学校栄養士が給食時間に学校等を訪問して、食に関する理解と判断力を養えるよう指導する。	541回	食べ物の働きや栄養バランスなど、食に関する理解や判断力を養うことを目的として、継続して指導を行う。
離乳食講習会すてっぷ1 【こども支援課】	4～5か月になる児の保護者を対象に、離乳初期について学び、正しい知識を普及する。	16回、397人	離乳初期について正しい知識の習得と保護者の不安軽減等を目的とし、内容等を検討しつつ継続実施。

(1) 栄養・食生活 関連事業

事業名【担当課】	事業内容	令和6年度実績	今年度の取組方針
離乳食講習会すてっぷ2 【こども支援課】	おおむね7か月児の保護者を対象に、離乳食やおくちのケアについての講話等を行い、正しい知識を普及する。	16回、293人	離乳中期について正しい知識の習得と保護者の不安軽減等を目的とし内容等を検討しつつ継続実施。
離乳食講習会すてっぷ3 【こども支援課】	9～11か月児の保護者を対象に、管理栄養士、歯科衛生士、保育士による講話と実演及び展示を行う。	6回、140人	離乳食から幼児食への移行時期の正しい知識の習得と保護者の不安軽減等を目的とし内容等を検討しつつ継続実施。
食べて健康喜寿訪問 【長寿包括ケア課】	高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施のハイリスクアプローチとして、低栄養のリスク(前年度検診結果BMI18.5未満)があり、該当年度77歳になる方を抽出し、保健師及び管理栄養士等専門職による訪問指導等を実施する。	一体的実施の3圏域延べ36名 他12圏域13名 延べ49名	通知に訪問以外の対応(来所・教室等)案内を行う。

(2)運動

【参考】小5、中2の1週間の総運動時間(体育除く)

9. 運動習慣者の割合の増加

10. 運動機能リスクのある高齢者の割合の減少(65歳以上の要介護状態になる前の高齢者)

番号	策定時	現状値	策定時と比較	目標
参考	—	小5男子: 545.77分 小5女子: 307.73分 中2男子: 805.7分 中2女子: 590.57分	—	—
9	20～64歳の男性: 35.7% 20～64歳の女性: 26.9% 65～74歳の男性: 50.1% 65～74歳の女性: 45.4%	20～64歳の男性: 38.4% 20～64歳の女性: 28.4% 65～74歳の男性: 48.1% 65～74歳の女性: 45.6%	↑ ↑ ↓ ↑	20～64歳の男性: 40% 20～64歳の女性: 30% 65～74歳の男性: 55% 65～74歳の女性: 50%
10	14.1%	—	—	減少傾向

※【参考】について、R6年度からデータソースに変更あり。「1週間の総運動時間(体育除く)が60分未満の児童の割合(小5、中2)」から「小5、中2の1週間の総運動時間(体育除く)」とする。

(2)運動 関連事業

事業名【担当課】	事業内容	令和6年度実績	今年度の取組方針
前橋市民軽スポーツフェスティバル【スポーツ課】	誰もが気軽に楽しめる軽スポーツの大会を開催し、スポーツを身近に感じてもらう。	第28回開催時は8種目（ウォーキングジャンボリー含む）107チーム821人が参加	R6～ウォーキングジャンボリーと統合し、継続実施。
ピンシャン！元気体操【長寿包括ケア課】	運動習慣の定着化、仲間作りを目的に、市内の老人福祉センターや公民館等で体操を実施。自主グループ等の立ち上げ支援も行う。	総合福祉会館実績 実施日数：243日 実施回数：578回 参加合計人数：9900人	月曜日から金曜日の平日、2～3回/日、ピンシャン元気体操を昨年度と同様に実施。
介護予防機能訓練【長寿包括ケア課】	心身機能・生活動作の状態に応じて個別助言等や集団での手作業指導により、心身機能の向上や認知機能低下抑制、生きがい活動の提供を行う。	理学療法機能訓練 開催回数 42回 参加者数 141名 作業療法機能訓練 開催回数 34回 参加者数 384名	昨年度と同様に、心身機能・生活動作の状態に応じて個別に助言等を行うとともに、指先を利用した集団での手作業指導を行う。

(3) 休養・こころの健康

- 11. 産後1か月でEPDS(エジンバラ産後うつ病質問票)9点以上のじょう婦の割合の減少
 - 12. 睡眠で休養が取れている者の割合(18～39歳、40～74歳)
 - 13. 人口10万対の自殺死亡率の減少
 - 14. 週に1回以上外出している者の割合の増加(75歳以上)
- 【参考】メンタルヘルスの研修・窓口または担当者の設置・定期相談のいずれかを実施している
「まえばしウエルネス企業」

番号	策定時	現状値	策定時と比較	目標
11	14.1%	17.4%	↓	減少傾向
12	18～39歳:68.9% 40～74歳:69.9%	18～39歳:66.6% 40～74歳:68.7%	↓	増加傾向
13	21.6	20.01	↑	12.7以下
14	88.9%	91.0%	↑	93%
参考	51%	58.5%	↑	56%

(3) 休養・こころの健康 関連事業

事業名【担当課】	事業内容	令和6年度実績	今年度の取組方針
こんにちは赤ちゃん事業 【こども支援課】	保健師又は助産師が乳児のいる全ての家庭に訪問し、不安や悩みを聞き、子育てに関する情報提供を行う。	面談率99.84% (1866人/1869人)	子育ての孤立化を防ぐために、子育てに関する相談、情報提供等の子育て支援を目的とし継続実施し、面談率99%以上を維持。
青少年支援事業 【教育支援課】	生徒指導上の問題改善に向け、スクールソーシャルワーカーの派遣等を行う。不登校やひきこもり傾向の子どもへの支援のため、専門職による家庭訪問等を行う。	・SSWの派遣小学校12校中学校10校、高等学校0校 ・SAの配置小学校4校、中学校11校 ・ODSの派遣小学校24校 →ODSが支援した人数35人 ・ODSの配置中学校20校 →ODSが支援した人数69人 ・中学卒業生(ひきこもり) →ODSが支援した人数11人	生徒指導上のさまざまな問題に対して、学校と連携・協力し、スクールソーシャルワーカー(SSW)の派遣等を行い解決に努める。 不登校やひきこもり傾向の子どもへの支援に務める。

(3) 休養・こころの健康 関連事業

事業名【担当課】	事業内容	令和6年度実績	今年度の取組方針
こころの健康相談 【保健予防課】	精神科医による医療等の専門相談や、保健師・精神保健福祉士による相談を行い、こころの健康を支援する。	精神科医師相談:28人 来所相談(延):1066人 電話相談(延):1571人 訪問(延):409人	心身の悩みや不調を抱える人、またはその家族等に対し、昨年度同様に実施。こころの健康・精神保健に関する相談・支援を行う。
ひきこもりの若者に対する支援 【保健予防課】	ひきこもりの若者が相談に来られない時期から、相談窓口や望ましい対応を家族が学び、一緒に考えるための教室・講演会を実施する。	家族教室:10回 106人 講演会:1回 19人	ひきこもりの家族が当事者への対応を学び、ひきこもり状態の軽減や家族自身の健康的な生活等を目標に教室を実施する。
ゲートキーパー養成講座 【保健予防課】	自殺予防の正しい知識と、ゲートキーパーについて学ぶために、養成講座を実施する。	23回 752人	自殺予防のため昨年度同様に実施し、悩みに寄り添える人の養成を行うとともに、関係機関がゲートキーパーの役割を担えるよう支援する。

(3) 休養・こころの健康 関連事業

事業名【担当課】	事業内容	令和6年度実績	今年度の取組方針
自殺予防に関する講演会 【保健予防課】	精神疾患をテーマとした、市民向けの講演会を実施し、人口10万対の自殺死亡率の減少を目指す。	1回 49人	自殺予防のため昨年度同様に実施し、正しい知識の普及と一人ひとりの気づきを促す。今年度の講演テーマは「若者のうつ病」を予定。
自殺予防のためのブックキャンペーン 【保健予防課】	市立図書館と連携し、自殺予防・こころの健康の知識普及のため、本の購入・貸出やリーフレット配布等を行う。	3回	自殺予防のため昨年度同様に実施し、知識の普及啓発に取り組み、こころの健康づくりを推進する。
認知症サポーター養成講座 【長寿包括ケア課】	認知症の方やその家族を支援できる認知症サポーターを養成する。	実施回数: 65回 受講者人数: 2425名	キャラバン・メイトの積極的な活動を促進する。職域へは店舗に貼れるステッカーを提供予定。

(3) 休養・こころの健康 関連事業

事業名【担当課】	事業内容	令和6年度実績	今年度の取組方針
介護予防サポーター養成・継続支援 【長寿包括ケア課】	地域で介護予防に主体的に取り組む介護予防サポーターを養成する。また、介護予防サポーターの活動を支援する。	初級研修修了者:115名 中級研修修了者:108名 上級研修修了・新規登録者数:105名 サポータースキルアップ研修開催数:全42回	地域での社会参加、地域貢献活動を推進し、自身の介護予防・健康増進につなげることを目的として介護予防サポーターを養成する。介護予防サポーター養成研修を、受講しやすいよう複数日程で開催。また、町ごとのサポーター活動数の偏りを解消するための仕組みづくりを検討する。
認知症を語るカフェ (R7年度より、まえばしおれんじカフェに名称変更) 【長寿包括ケア課】	認知症の人とその家族、認知症支援に関心がある人を対象に、集まる場を提供。早期の気づきや認知症の人の生きがいづくり、家族への支援の場をつくる。	開催回数:12回 参加延べ人数:163名	認知症の当事者やその家族、地域住民、専門職者が集い、相互に情報共有や交流を図ることのできる通いの場の一つとして、昨年度と同様に運営を継続していく。

(3) 休養・こころの健康 関連事業

事業名【担当課】	事業内容	令和6年度実績	今年度の取組方針
はつらつカフェ 【長寿包括ケア課】	高齢者支援に携わる団体がボランティアと協働し、地域で集まることのできる場を設けることで、地域での見守り・交流の場の拡充を図る。	法人実施回数:393回 参加延べ人数:3926名	認知症支援や閉じこもり予防のために、昨年度と同様に事業を実施し地域での見守り・交流の場の拡充を図る。
介護予防活動ポイント制度 【長寿包括ケア課】	地域での社会参加、地域貢献活動を推進し、自身の介護予防・健康増進につなげることを目的とし、ボランティア活動をポイント化し、買い物券などと交換することで、活動を支援する。	介護予防活動ポイント登録者数:1180名	昨年度と同様に実施することで活動を支援する。
まえばし話楽笑る会 【長寿包括ケア課】	認知症の人が集い、自らの体験や希望、必要としていることを主体的に語り合う場を設け、認知症の人同士がつながり、社会参加や生きがいづくりを推進する。	開催回数:10回 参加延べ人数:43人	R6年度は、認知症伴走型支援拠点(ibasho いばしょ)で開催。R7年度よりまえばしおれんじカフェと同時開催のため、新規参加者増を図り、本人視点での施策への企画の検討を図る。

(4) アルコール

15. 妊娠中の飲酒をなくす(妊婦の飲酒率の低下)

16. 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒(男性40g以上、女性20g以上)している者の割合の減少

番号	策定時	現状値	策定時と比較	目標
15	0.5%	0.4%	↑	0%
16	21.8%	21.2%	↑	20%

(4) アルコール 関連事業

事業名【担当課】	事業内容	令和6年度実績	今年度の取組方針
健康ステップアップセミナー等 【健康増進課】 ※R6年度よりいきいき健康教室より名称変更	保健師・管理栄養士・歯科衛生士が地域に出向いて講話等を行い、健康づくりに役立つ意識を普及する。	165回、7966人	国保特定健診有所見者割合を受け、糖尿病・高血圧・肥満対策を強化する。

(5) たばこ

- 17. 妊娠中の喫煙をなくす
- 18. 20歳以上の者の喫煙率の減少
- 19. COPD(慢性閉塞性肺疾患)死亡率の減少(人口10万人当たり)

番号	策定時	現状値	策定時と比較	目標
17	1.4%	1.4%	=	0%
18	21.6%	21.3%	↑	16%
19	18.1	16.2	↑	15

(5)たばこ 関連事業

事業名【担当課】	事業内容	令和6年度実績	今年度の取組方針
薬物乱用・喫煙防止教室 【教育支援課】	薬物や喫煙が心身に及ぼす影響について正しい知識を習得し、薬物乱用・喫煙防止の徹底を図るため、専門的な知識を有する外部講師による講習会を開催する。	市内の中学校6校 6回 2,097人	薬物乱用・喫煙防止の徹底を目的に、継続実施する。
禁煙チャレンジ塾 【健康増進課】	禁煙を決意した人に具体的な禁煙方法を紹介し、禁煙開始日から3か月間継続的に支援する。	8人、21回	1か月以内に禁煙したいと考えている人に対して、個別性を考慮しながら禁煙指導を行う。

(6) 歯と口の健康

20. 3歳児でむし歯のない者の割合の増加

21. 12歳のむし歯がない者の割合

【参考】12歳で歯肉炎(G,GO)を有する者の割合

22. 40歳で進行した歯周病を有する者の割合の減少

23. 60歳で進行した歯周病を有する者の割合の減少

番号	策定時	現状値	策定時と比較	目標
20	89.1%	90.3%	↑	90%
21	77.5%	76.5%	↓	90%
参考	G: 4.3% GO: 16.1%	G: 5.4% GO: 14.4%	↓ ↑	—
22	50.8%	47.5%	↑	40%
23	59.5%	58.5%	↑	45%

(6) 歯と口の健康

- 24. 50歳以上(50～74歳まで)における咀嚼良好者の割合の増加
- 25. 歯科健康診査受診率の向上
- 26. 定期的に歯科健診を受けている者の割合の増加

番号	策定時	現状値	策定時と比較	目標
24	81.0%	81.0%	=	85%
25	妊婦:48.2% 成人:3.6%	妊婦:45.8% 成人:4.8%	↓ ↑	妊婦:50% 成人:7%
26	20・25・30・35歳:36.2% 40・45・50・55・60歳:43.8% 65・70歳:46.8%	20・25・30・35歳:36.1% 40・45・50・55・60歳:43.4% 65・70歳:49.8%	↓ ↓ ↑	増加傾向

(6) 歯と口の健康 関連事業

事業名【担当課】	事業内容	令和6年度実績	今年度の取組方針
すこやか健康教室 【こども支援課】	保健師・管理栄養士・歯科衛生士・保育士が地域に出向き、子育てに関する講話等を行う。	30回、1289人	地域に出向き健康教育を実施し、子育てに関する知識の普及を目指す。
おくちげんき教室 (巡回歯科指導) 【こども支援課】	おくち育てや歯科知識の普及と歯みがきの習慣づけを目的に、乳児・保護者や関係者に対して歯科指導を行う。	53回 3,783人	正しい歯科知識の普及と口腔機能の向上を習慣づけることを目的に、おくち遊び、歯磨き指導等を実施。
妊婦歯科健康診査 【こども支援課】	歯周病・むし歯等の早期発見・治療のため、健診を1回実施する。(おおむね妊娠16～27週)	受診率 45.8%	妊娠中の歯及び口腔の疾病を早期発見・予防することを目的に実施する。
歯と口の健康教室 (歯科刷掃指導) 【総務課(教)】	歯科医師と歯科衛生士が市内小中学校に出向いて、講話やブラッシング指導を行う。	小学校15校 中学校7校	児童、生徒の口腔衛生の向上を図るため、巡回指導を継続して実施する。

(6) 歯と口の健康 関連事業

事業名【担当課】	事業内容	令和6年度実績	今年度の取組方針
成人歯科健康診査 【健康増進課】	20歳～70歳の5歳刻みの方を対象に、口腔機能の保持・増進を目的に、問診や検査を実施する。(R7年度から63歳、68歳も対象)	2086人	市の広報誌やSNS、HP医療機関でのポスター掲示などを通じて周知。特に、受診率が低い傾向にある若年層や働く世代に対しては、ライフスタイルに寄り添った情報発信を強化し、積極的な受診を促進する。
ピンシャン！健康教室 (出前方式) 【長寿包括ケア課】	介護予防知識の普及啓発・介護予防の実践を目的に、専門職が会場に出向いて、介護予防についての講話や簡単な実技を行う。	実施件数：95件	テーマを設定し、昨年度と同様に実施。

(7) 健康診査

- 27. メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の者の割合の減少
- 28. 特定健康診査の実施率の向上(国民健康保険)
- 29. 特定保健指導の実施率の向上(国民健康保険)
- 30. がん検診受診率の向上

番号	策定時	現状値	策定時と比較	目標
27	メタボ該当者 21.9% メタボ予備軍 11.2%	—	—	メタボ該当者 20.0% メタボ予備軍 10.0%
28	39.3%	—	—	46.5%
29	23.9%	—	—	33.0%
30	胃 : 18.5% 胸部 : 11.1% 大腸 : 10.3% 子宮 : 22.7% 乳 : 24.2%	胃 : 15.0% 胸部 : 11.0% 大腸 : 10.1% 子宮 : 19.5% 乳 : 20.0%	↓	胃 : 22% 胸部 : 15% 大腸 : 15% 子宮 : 25% 乳 : 28%

(7)健康診査 関連事業

事業名【担当課】	事業内容	令和6年度実績	今年度の取組方針
スマイル健康診査 【健康増進課】	職場や学校で健康診査を受ける機会のない18歳～39歳を対象に健康診査検を実施し、病気の予防、早期発見・治療を目指す。	5回、833人	昨年同様に実施する。今年度から問診をウェブで行い、受診者の負担軽減を図る。
がん検診 【健康増進課】	胃・胸部・大腸・子宮頸・乳・前立腺がん検診を実施し、がんの早期発見・早期治療により死亡率の低下を図る。	受診率 胃 15.0% 胸部 11.0% 大腸 10.1% 子宮 19.5% 乳 20.0%	受診率向上を目指し、集団教育の実施や夜間・休日の集団検診等実施体制の工夫、再勧奨通知の発送を行う。また、精検受診率向上を目指し、精検未受診者への再勧奨(通知、年数回のタイムリーな電話)を行う。
国保特定健康診査 健康増進健康診査 【国民健康保険課 健康増進課】	生活習慣病の発症や進行を防ぐことを目的とした特定健康診査等を実施する。	11月に確定	インセンティブの見直しや、AIを活用した過去の受診結果データの分析による積極的受診勧奨を実施する。

ライフコース 女性の健康

31. 骨粗鬆症検診受診率の向上

番号	策定時	現状値	策定時と比較	目標
31	18.3%	19.1%	↑	23%

ライフコース 女性の健康 関連事業

事業名【担当課】	事業内容	令和6年度実績	今年度の取組方針
ハローベビー クラス 【こども支援課】	初妊婦やその家族等を対象に、妊娠・出産・育児等に関する正しい知識を普及する。	40回、1014人	妊娠・出産に伴う心身の変化や赤ちゃんを迎える上での知識・技術の習得を目的に、昨年同様教室を実施し、開催内容や開催方法を検討しつつ継続実施。
産後ケア事業 【こども支援課】	育児支援を特に必要とする母子を支援し、心身の安定及び育児不安の解消を図る。	・ショートステイ型 利用人数217人 利用回数743回 ・デイサービス型 利用人数294人 利用回数651回 ・アウトリーチ型 利用人数27人 利用回数75回	出産後サポートが必要な母が医療機関や自宅等で必要なケアを受け、不安を軽減しながら、前向きに育児に取り組めることを目指す。運営方法を検討しつつ継続実施。
女性の健康づくりに 関する教室 【健康増進課】	更年期前後の女性を対象に、女性特有のからだの変化を学び、生活習慣の改善を図る。	4回、49人	令和6年度より定員を拡大し、継続して実施する。

重点課題 糖尿病対策

- 32. 糖尿病性腎症の年間新規透析導入患者数の減少
 - 33. 血糖コントロール不良者(HbA1c8.0%以上)の割合の減少
- 【参考】糖尿病有病者(糖尿病が強く疑われる者HbA1c6.5以上)の増加抑制

番号	策定時	現状値	策定時と比較	目標
32	49人	46人	↑	増加抑制
33	1.45%	1.30%	↑	1%
参考	13.2%	12.0%	↑	—

重点課題 糖尿病対策 関連事業

事業名【担当課】	事業内容	令和6年度実績	今年度の取組方針
糖尿病性腎症重症化予防事業 【国民健康保険課 健康増進課】	糖尿病の重症化を予防するため、専門職の訪問等で、健診結果等の説明と医療機関への受診勧奨を行う。	事業実施者 【国保】 健診受診者 81人 治療中断者 148人 DKD保健指導 5人 (R6初回面接実施者) 【増進】 88人	国保連合会と連携して評価を行い、ハイリスク者への再勧奨の強化等事業を展開する。
血糖値が気になる人の教室 【健康増進課】	糖尿病や慢性腎臓病の予防のため、正しい知識の普及と生活習慣の改善を図る。	4回、40人	参加者数の増加のため、電子申請の導入や外部会場での開催を検討する。
月いち健康相談 【健康増進課】	毎月1回、保健師や管理栄養士、歯科衛生士による個別の健康相談を行い、正しい知識の獲得や不安軽減を支援する。	10回、23人	市民が気軽に相談できる先として継続実施する。

重点課題 高血圧対策

- 34. 脳血管疾患の年齢調整死亡率の減少(人口10万人当たり)
 - 35. 心疾患の年齢調整死亡率の減少(人口10万人当たり)
 - 36. 収縮期血圧値の平均値(40歳以上、内服加療中の者を含む)の減少(年齢調整)
 - 37. LDLコレステロール160mg/dl以上の者の割合(40歳以上、内服加療中の者を含む)の減少(年齢調整)
- 【参考】NDBオープンデータ掲載
- 【参考】[県データ]食塩摂取量の減少(目標設定・評価なし)

番号	策定時	現状値	策定時と比較	目標
34	男性:103.9 女性:63.3	男性:93.13 女性:53.28	↑ ↑	減少傾向
35	男性:205.7 女性:124.7	男性:218.1 女性:111.73	↓ ↑	減少傾向
36	133.5mmHg	132.9mmHg	↑	128.5mmHg
37	8.0% (参考)13.4%	8.0% (参考)12.1%	=	6.0%
参考	—	—	—	7g

重点課題 高血圧 関連事業

事業名【担当課】	事業内容	令和6年度実績	今年度の取組方針
健康増進保健指導 【社会福祉課 健康増進課】	健康増進健康診査の結果で対象となった方に、保健指導を実施し、生活習慣の改善や病気予防を支援する。	対象者3,767人のうち長期入院や施設入所を除く2,862人対し受診勧奨を実施。健康教室を5回実施。	昨年度は教室の新規参加者の増加に重きを置いたが今年度は教室参加者の生活の質をより向上することに着目する。
市民健康講座 【健康増進課】	健康に関して、医師・歯科医師・薬剤師等が講演し、正しい知識を普及する。	3回、121人	市民の関心のある情報を得られる講演会を開催する。講演会内で健康まえばし21の周知を実施する。
スマイル保健指導 【健康増進課】	スマイル健康診査の結果で対象となった方に、保健指導を実施し、生活習慣の改善や病気の予防を支援する。	9回、7人	昨年同様に実施し、対象者のメタボリックシンドロームの進行の予防を図る。

重点課題 高血圧 関連事業

事業名【担当課】	事業内容	令和6年度実績	今年度の取組方針
特定保健指導 (前橋市国保) 【国民健康保健課】	国保特定健康診査の結果で、対象となった方へ保健指導を実施し、生活習慣の改善や病気予防を支援する。	11月に確定	利用券発送後の返信がない者への積極的な利用勧奨、健診時の初回面接分割実施を行う。初回面接分割実施の拡大を検討する。
ピンシヤン！健康相談 【長寿包括ケア課】	主に65歳以上を対象に、健やかで活力ある自立した生活の継続を支援することを目的に、老人福祉センター等で、高齢者の心身の状況に応じて、血圧測定や健康・疾病に関する相談を行う。	老人福祉センター 健康相談者数:22名	老人福祉センター利用者からの食事や口腔の相談対応を、昨年度と同様に実施する。